

平成 30 年 5 月 24 日

# 南の風 271

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

もうひとつ、「チームにコミットメント」しようとする気持ちを引き出し、『戦闘意欲』を駆り立てるために必要なことがあります。

それは選手に『期待されているんだな!』と感じさせることです。

思うようなプレイができない選手や、ミニバスで言えば10人のレギュラーに入れない選手は、おそらく常に、「自分は期待されているのかな?」と不安になっているはずで

そんな折に、「コーチは期待しているよ。おまえはもっとできるはずだ。」と語りかけることがもの凄く大事になります。これはバスケットボール選手に限ったことではないと思います。実際、教育心理学の分野では、ピグマリオン効果といって、教師から「期待しているよ。」と言われた生徒の方が言われなかった生徒よりも成績が伸びたという実験結果があります。

したがって、コーチは選手のモチベーションを引き出すために、「コーチはおまえに期待しているんだ」ということを感じさせることが非常に大切になります。(言葉で伝えるか、起用法で知らせるかは別として)

但し、気をつけないといけないのは、「期待している」と口にしながらも、期待し過ぎてもいけないのです。ここが非常に難しいところです。

なぜ我々(コーチ)が失望するかといえば、期待しているからです。期待するからこそ、それに応えてくれない場合は失望するわけです。そして、期待が大きければ大きいほど、その反動として失望感もまた大きくなってしまいます。

だから、「期待している」と口にするときには、どの程度の期待なのかということ、自分の心の中で明確にしておくことが必要なのです。そうしておかないと、もし選手が期待に応えられなかったとき、失望がどうしても態度や表情に出てしまいます。失望していることがわかってしまうことによって、選手はショックを受けます。そのショックがダメージとなってモチベーションが下がる・・・ということにつながってしまうのです。ですから、そのあたりのバランスは常にコントロールしておく必要があるのです。

そのバランスを間違えないためには、日頃から個々の選手の観察をこまめに行い、性格や精神力の強さ、弱さを把握しておくことが欠かせません。

そのためには、家庭環境や家族状況もできうる範囲で知っておくことが大事になります。

それらがわかると、「この選手は普段はおとなしくて目立たないが、いざとなったらすごい力を発揮するな」とか「この子はいつもは威勢のいいことを言っているけど、追い込まれるとあまり頼りにならないな」といったことが想像できるようになります。

これらのことを頭にいれておけば、大事なゲームで選手を起用した際に「え、なんで」とか「こんなはずでは」という戸惑いや失望感をもたなくて済みます。ゲームを進める上で、予め予測することができ、不測の事態に対処しやすくなります。さらに言えば、適所に選手を起用することも可能になり、戦略・戦術にも生かすことができるようになるのです。